

# 教育におけるテクノロジー:

## 誰の条件に応じたツール?

教育におけるテクノロジーの役割については、長い間激しい議論が巻き起こってきました。

それは知識を民主化するのでしょうか、それとも選ばれた少数の人が情報をコントロールできるようにすることで民主主義を脅かすのでしょうか?それは無限の機会を提供するのでしょうか、それともテクノロジーに依存した見返りのない未来につながるのでしょうか?それは競争の場を平等にするのでしょうか、それとも不平等を悪化させるのでしょうか?幼児の教育に使用すべきでしょうか、それとも発達にリスクがありますか?この議論は、新型コロナウイルス感染症による学校閉鎖と生成型人工知能の出現によってさらに加速している。

しかし、開発者は意思決定者よりも一歩先を行くことが多いため、教育テクノロジーに関する研究は複雑です。堅牢かつ公平な証拠は不足しています。社会は解決策としてテクノロジーに目を向ける前に、教育について正しい質問をしているのでしょうか?彼らはその利点を追求しながらも、そのリスクを認識しているのでしょうか?

情報通信テクノロジーは、恵まれない学習者に手を差し伸べ、魅力的かつ手頃な形式でより多くの知識を普及させるといって、公平性と包括性をサポートする可能性を秘めています。特定の状況および一部の種類の学習では、基本的なスキルの指導と学習の質を向上させることができます。いずれにせよ、デジタルスキルは基本的なスキルパッケージの一部となっています。デジタル技術は管理をサポートし効率を向上させることもでき、より大量の教育データの処理に役立ちます。

しかし、テクノロジーは、完全に有害ではないにしても、排除したり、無関係に負担になったりする可能性もあります。政府は、すべての人が教育に公平にアクセスできるようにするための適切な条件を確保し、テクノロジーの悪影響から学習者を保護するためにテクノロジーの使用を規制し、教師の準備を整える必要があります。

この報告書は、テクノロジーが適切で、公平で、拡張可能で持続可能であることを示す証拠に基づいて、テクノロジーを教育に導入する必要があると推奨しています。言い換えれば、その使用は学習者の最善の利益となるべきであり、教師との対面でのやり取りを補完するものでなければなりません。これは、これらの条件で使用されるツールとして見なされるべきです。

期限の半ばに差し掛かった2023年世界教育モニタリング報告書は、2030年の教育目標を達成するまでの道のりを評価している。教育は、他の開発目標、特に技術進歩の目標を達成するための鍵です。

